

町政を問う!!

9 議員が質問・提案を

漁業振興

漁業問題 どう乗り切る

海洋資源を持続的に活用



おくもと かつや 議員

問 黒潮町の魚種別・漁法別に今までの成果を分析し、これからの課題をどうとらえているか。

答 土居海洋森林課長

沿岸漁業の深海はえ縄漁(ノドグロ)は、現在キロ単価6千円前後で取り引きされている。新型コロナウイルス感染症の影響で需要バランスの変化により、昨年と比べ1千円程安い価格になっている。漁獲量の減少、漁業収入も減少している。

問 深海はえ縄漁の大型底引き網との問題、モジャコ漁のリマ区域補助金に関しての取り組みと潜水漁業のハマグリ放流について問う。

答 土居海洋森林課長

モジャコ採捕漁業については、中間養殖におけるべこ病が近年発生し、原因検証と対策を県に求めている。新型コロナウイルス感染症の影響で養殖漁業も需要バランスが変化しモジャコ稚魚にも大きな影響が出ている。定置網漁業に関しては、町内3カ所で稼働があり、令和元年度水揚げ金額1億1700万円で、町内市場にも安定的に供給している。漁業全般にかかっている課題は、担い手不足、水揚げの減少が顕在化しているため後継者対策、沿岸漁業整備等に関する取り組みを継続的に推進し、限られた海洋資源を持続的に活用できるように取り組む。

モジャコ漁のリマ区域については、繁殖も地場で産卵されたものではなく、漂流し、落ちた場所で育つようだ。入野の浜だけで考えるのではなく、県全体で考える必要があるの

で県に要望し、放流していくことが繁殖につながると考えている。

問 漁業後継者は農業に比べ少ない。漁業と農業の兼業後継者育成はできないか。

答 土居海洋森林課長

漁業における受け入れ体制は農業と比べ指導者や事業者が不足している。希望者がいても受け入れできない場合があり、県支援センターや地元漁業者と連携し受け入れ体制の充実に努める。

答 西村企画調整室長
移住も含めた就業モデルもしっかりと作っていく必要がある。漁業単品、



ブランド魚として出荷されるノドグロ



入野産ハマグリ

農業だけの難しい部分もあると思う。今後就労モデルも含め全町挙げて後継者育成について考えていきたい。